

算数・数学は、他の教科に比べて、格段に

判ることが求められています。

しかし、現実の教育の場では、

「これはルール」と

頭ごなし、天下りの的に与えられていることが
数多くあります。

例えば、 $3+2\times 4=3+8$ など

かけ算は足し算より先に計算するなど、

ほんの基本のところ

説得を放棄して押しつけになっています。

数学は、ルールの元を

皆の判るように提示すべきだと思いたすが

明示できていません。

これは、数学教育における二つの大きな失敗です。

一つは、

判った!という数学の根本を捨てていること。

もう一つは、

数学は、演繹的に述べればそれで良い、として、
法則発見の道を閉ざしていること。

うまく説明できていないにもかかわらず、
いかにも完全なものだというフリをしています。
自分たちの説明できないことを
ごまかしてはならない。

私の小学校の6年間の担任だった
細呂木見良先生は、同窓会で、

「**比べる量÷割合＝基にする量**

の教科書の説明はうまくできているとは思えません」
と尋ねたとき、

『キミ、それができたら算数教育のノーベル賞だよ』
と答えられました。

60年間、算数教育を追求された先生も
それが不出来だということを認められた
ということは、その後の私の探求の礎になりました。

小学校で、

『未開社会では数は発達しない』と習い、
以後、それは何故なのかを考え続けた60年間の末に
辿り着いたのが、この、

算数教育改革提言です。

ご批判をお待ちしています。

631-0805 奈良市右京3丁目7-5

寺尾友豪